

～イスラエル女性アーティスト～

ノナ・オーバフ／ハナ・ネヴェ／ドロラ・スピッツ

「In Sight ～まなざし～」展



◇会場：未来画廊 mirai-garou

◇会期：2008年5月15日(金)～6月10日(火)

◇レセプション：2008年5月15日(金) 19時～

これまで、ギャラリー／バーという二面性を持った空間として国内外の様々な表現を紹介してきた(未来画廊)は今回、イスラエルが建国60周年を迎える本年の5月15日(金)～6月10日(火)の期間、イスラエルで活動する3名の女性アーティストによる「In Sight ～まなざし～」展を開催いたします。

本展では、考古学的な見地から歴史と文化を結びつけるアーティスト「ノナ・オーバフ」の作品を中心に、イスラエルで活動する3名の女性アーティストの作品を展示いたします。それぞれの手法で表現された彼女達の「心の風景」を是非ご覧ください。

尚、アーティスト「ノナ・オーバフ」は、〈nichido contemporary art〉(東京都中央区八丁堀4-3-3 ダヴィンチ京橋B1)にて開催されるグループ展 “Identity IV” (5月23日～6月21日)にも、選出された10名のアーティストの1人として参加いたします。

アーティスト紹介

ノナ・オーバフ

考古学からインスピレーションを受けてきた彼女は「土壌を掘る行為は、歴史を掘下げることであり、また人間の魂を理解することとも繋がっている」という考えを制作の指針としてきた。これまでさまざまなメディアを駆使し、歴史と文化を結びつける表現を数多く発表している。



ノナ・オーバフ

ハナ・ネヴェ

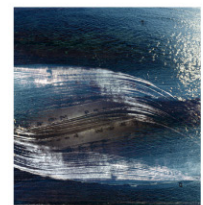
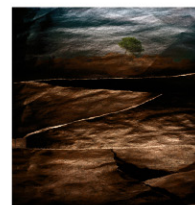
彼女の作品にみられるミニマリズムやモノクロームな色使いは俳人「松尾芭蕉」から深く影響を受けたものである。1990年～91年には「Sabi(寂び)」という展示を3度開催するなど、日本独特の、静かで哀れに満ちた美を意味する「寂び」を、自身の芸術や自国の文化に翻訳するよう試みている。



ハナ・ネヴェ

ドロラ・スピッツ

彼女の作品は、写真に手を加え、相反する構成要素を調和させ再構築するという手法で、見るものに物と精神の間、または本質と心の間をゆるやかに移動するような感覚をあたえる。近年はレイヤーや陰影、抽象的な動き、そして変化する視野などを取り入れた作品を発表している。



ドロラ・スピッツ

当リリース・取材等に関するお問い合わせ

「未来画廊」担当：太田 TEL 03-5772-9797 FAX 03-5772-9796 E-mail ohta@mirai-gallery.com

〒106-0032 東京都港区六本木5-10-25 ゼルコートA棟2F <http://www.mirai-gallery.com>

【営業時間】月～土曜日 11:00～翌3:00 (Salon Time:19:00～) / 日曜・祝日 11:00～24:00 (Salon Time:18:00～)